

2017年(平成29年)9月14日

外国人技能実習生は「安価な労働力ではない」

多様な人材受容の組織風土求める

日本経営と北海道銀行が札幌でセミナー



日本語学校のベトナム人留学生が登壇し、日本の印象について述べた

日本経営と北海道銀行は、外国人人材を活用するための日本語教育や受け入れ態勢について6日、札幌市内でセミナーを開催した。

11月には外国人技能実習制度に介護職種が追加されるのを踏まえ、監理団体の土壌塚昌隆国際人材革新機構室長が「安価な労働力として頼るのではなく、あくまで日本の技術を伝えることを主眼にしてほしい」と指摘。

入国後、介護現場で実習に従事しながらの日本語教育について、西川和樹ジェイシアージャ社長は「日本語能力試験レベルN4で入国した際、介護現場での会話能力としては低い。入国後約1年間でN3取得が必須となるが、合格率約3割の難関のため不合格によって帰国するリスクが高い」と説明。母国でN3レベルに達してから入国するプログラムを提唱した。

る点を強調。

活用できない理由に
▼特別扱いしすぎて他の職員と切り分けて考える▼短期間で技能習得を求める▼母国の文化や風土を理解せず、日本流を押し付ける▼人件費抑制という観点で受け入れている一点を挙げた。

日本経営の中川稔大コンサルタントは、先駆的に外国人人材を活用する法人の特徴として30法人のヒアリング結果から、元気高齢者、障害者、就業していない女性や若者など多様な人材をマネジメントできる能力に長じているのでは」と分析した。